

中国－エルサルバドル間投資・通商関係（当地報道ぶり）（2018年9月6日付）

エルサルバドルは2018年8月に台湾と国交断絶し、中国との外交関係を樹立しました。当地の報道によれば、これを受け、9月第3週に、エルサルバドルの経済省、農牧省、中央銀行、外務省－国際協力担当外務次官室の代表等からなる最初の公式ミッションが派遣される予定とのこと。

現状、報道において、例として挙げられている投資・通商の主なテーマは以下のとおりです。

1 投資

- エルサルバドル国際空港近辺における精密科学・工学に関する科学技術パーク
- ラ・ウニオン県におけるタマリンド空港
- ラ・ウニオン県における観光施設（ホテル等）
- ラ・ウニオン県における繊維
- ラ・ウニオン県における自動車部品

【参考：報道における政府要人発言】

－ムンギア国防大臣発言

「中国企業がエルサルバドル領海での天然資源の掘削に関心を持っている可能性がある。なぜならば、エルサルバドル軍によるいくつかの調査によれば、フォンセカ湾には天然ガスや石油が埋蔵している可能性が非常に高いからである。」

2 貿易

- 部分自由化協定の交渉（エルサルバドルの優先品目：コーヒー、砂糖）

【参考：報道における政府要人発言】

－ロドリゲス経済大臣発言

「まず、10万トン、今年中に21万トンの砂糖を中国市場に輸出したい。」